

# 造形通信

2024. 1月  
NO.66  
ひいらぎこども園

作りたい!!

## お部屋に入らないくらい大きなかぶ

新しい年がやってきました。大きな災害や信じられないような事故が次々と起こった1月です。子どもたちが元気で、笑顔で、健やかに成長してくれることをわたしたちは望むばかりです。今年1年がすべての人にとって幸せな年になりますように!

園庭やお部屋からは子どもたちの元気な声が聞こえてきます。遊ぶのが好き、つくるのが好き、みんなと一緒にいるのが楽しい。子どもたちの笑顔をたくさん見たいですね。

## こどもの「やってみたい!」 「やりたい!」から始まる活動!

おうちをつくろうよ!

段ボールをつなげていくと、「おうちをつくろう!」と声があがりました。

年少の子どもたちから出てきたつぶやきが活動のはじまりでした。小さなつぶやきを先生が受け止め、「みんなでおうちを作ろう!」ということになった年少のお部屋。何から作る?と言うまでもなく、子どもたちから「壁があるよ。」という声があがり、段ボールを集めて壁作りが始まりました。



自分たちで後片付けもできました!

壁に色をぬろう!

壁に飾りをつけよう!



みんなでローラーで壁に色をつけました!



いすにもようをつけるよ。



自分の足で牛乳パック挟み込み、一つずつとめていきました!



牛乳パックをつなげていきました!

ベッドもほしいな。

立派なおうちができてきました。



自分たちで作ったベッドは気持ちがいいな。

おうちに電気もつけたいな!



お部屋から出るかどうか確かめています!



おうちにはいるのかなあ!

稜也君の大好きな「おおきなかぶ」の大型絵本。クラスのお友達に何度も何度も先生が読んでくれました。「このかぶはおうちに入るのかなあ。」と子どもからのつぶやきからはじまり、「みんななかぶを作ろう!」ということになりました。毎日毎日、新聞紙をペタペタと貼っていきました。今ではこんな大きなかぶになっています。

子どもたちはお話のような大きな大きなかぶをつくるということで、「おうちに入らない大きさ」のかぶをつくらうと毎日がんばっています。さて、どんなかぶができるのでしょうか。

子どもの実態から、つぶやきを拾い、子どもたちの主体的な活動に広げた楽しい活動です。まだまだ活動は続いていきます。

「やりたい!」と思うことが、次の活動を生みます。活動が進むことでまた新たな活動が生まれていきます。一人の思いが全体に広がることで、楽しさは倍増し、また新たな活動に繋がっていきます。こうした主体的な活動は、子どもたちに満足感と安心感を与え、一人一人の自信につながっていきます。